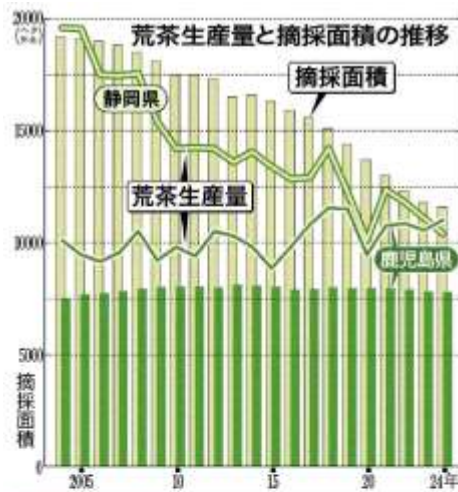




新芽を機械で摘み取る農家
＝2024年3月、西之表市古田

2024年産の鹿児島県の荒茶生産量は、前年比3%増の2万7千ト(シェア37%)で、1959年に都道府県別統計を開始して以来、初めて静岡県(2万5800ト)を抜き全国1位となった。農林水産省が18日公表した。一番茶は静岡に1550トの差をつけられたものの、堅調なドリンク原料需要に支えられ、二番茶後半から盛り返した。

鹿児島県によると、一番茶需要が強まり、鹿児島が二番茶後半から生産量を伸ばした。10月当たり生産量は、前年比4%増の1680トとなり、主産地平均(1200ト)を大きく上回った。高齢化や茶価低迷で生産量が減少傾向にあった静岡県は、新型コロナウイルス禍以降も減産が続き、2022

3年産では鹿児島との差が過去最少の1100トに縮まっていた。鹿児島は荒茶と生葉を合わせた茶産出額では、19年に一度だけ日本一になったものの、生産量では静岡の後塵を拝してきた。塩田康一知事は「生産者や茶業関係者の努力による快挙。多様なニーズに対応した生産、国内外の販路開拓などを引き続き支援していく」とコメントを出した。

24年
2.7万ト、
抜く

鹿児島産荒茶初の首位

【問1】 見出しの空欄に当てはまる県を次のア～エから一つ選びましょう。

ア 三重 イ 宮崎 ウ 福岡 **エ 静岡**

【問2】 鹿児島県が二番茶後半から生産量を伸ばしたのはなぜですか。

(**ペットボトル茶などのドリンク原料需要が強まったから**)

【問3】 鹿児島県の荒茶の生産は、問1の県と比べてどのような特徴がありますか。グラフから読み取れることを「摘採面積」「荒茶生産量」で答えましょう。

(**問1の県に比べ、摘採面積は多い。荒茶生産量は多い。**)

【問4】 塩田康一知事は、鹿児島県の荒茶生産をどのように支援するとコメントしていますか。二つ答えましょう。

(**多様なニーズに対応した生産**)
(**国内外の販路開拓**)

【調べてみよう】 鹿児島県の茶について、生産の工夫や加工・販売の工夫など、茶業関係者がどのように努力しているか調べてみよう。



* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

荒茶(あら・ちゃ)＝摘んだ葉を蒸してもみ、乾燥させたままの茶 抜(ぬ)き 堅調(けん・ちょう)＝相場が上昇傾向にあること 需要(じゅ・よう) 伸(の)ばした 摘採(てき・さい) 収穫量(しゅう・かくりょう) 高齢化(こう・れい・か) 傾向(けい・こう) 禍(か)＝わざわい、災厄 後塵(こう・じん)を拝(はい)す＝人に先んじられる。後れをとること 販路開拓(はん・ろ・かい・たく) 支援(し・えん)